

## アメリカ・ミシガン州駐在員便り

2006/7/17 駐在員：山川 祐司

### 温度計で確かめる夏の訪れ

町で見かけた温度計で季節を感じたり、体感温度との違いに驚いたりということがあると思いますが、こちらでも同様のものを見かけます。

個人的な体質や「北海道と同緯度だから滋賀よりは涼しいはずだ」という頑固な思いこみもあるのかもしれませんが、7月に入ってからも、クーラーはもちろん、扇風機なしでも窓さえ開けておけば快適に過ごせる日がかなりありました。また、長年慣れ親しんだ季節の行事や梅雨入りという節目から遠ざかってしまっているため、7月になったという実感が持てずにいます。温度というデータで夏になったことを納得するのの一つの方法とはいえ、少し寂しい気がします。

ただ、ここ数日は最高気温が30度を超える暑さを記録し、新聞にも「用事は日中を避けて朝か晩に」「冷房が効いた図書館へ行ってみては」のようなアドバイスが載るなど、少しずつ夏らしい雰囲気になってきました。

日本の夏を知る地元（ミシガン）の方から、「この暑さ、まるで日本みたいでしょ」と言われてしまいましたが、湿気を感じない分、こちらの方がまだ過ごしやすいと思います。



前々回でご説明したことにも通じますが、こちらの温度は華氏で表記されるため、慣れるのに少し時間を要します。

本文中では「30度を超える暑さ」と摂氏で書きましたが、炎天下になると写真では73度（ほぼ摂氏23度）と写っている表示部に、90度（ほぼ摂氏32度）を超える数字が点灯することになり、見る者に暑さを再認識させます。